

2023年12月5日
日本社会事業大学
学長 横山彰

令和5年度文京区内大学学長懇談会
「アフターコロナにおける大学の取組みについて」

1. はじめに

本学では、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後においても、不測の事態に備え、学内の「新型コロナウイルス感染症対策本部」は引き続き維持し、学生・教職員の感染者数把握を継続している。また、コロナ禍の影響により撤退に追い込まれた学内の食堂及び売店については、今年5月に新規事業者に切り替え再開したことで、在学生のキャンパスライフの質を向上させている。

2. コロナ後の授業体制

学部においては授業形態を原則対面形式に戻したが、研究大学院・専門職大学院ではハイブリット形式の授業を継続している。

3. 国際交流関連の事業

(1) コロナ感染状況の世界的な安定がみられたことで、国際交流関連の事業として、以下の取組みを行った。

- | | |
|----------|--|
| 2022年11月 | インドネシア共和国社会省との研究交流 |
| 2023年2月 | 「環太平洋社会福祉セミナー2023：危機の世界における社会福祉実践者の働き、役割と未来」（インドネシア共和国・日本・大韓民国・ベトナム社会主義共和国の大学教員の報告・討論：オンライン形式）の開催 |
| 2023年3月 | オーストラリア（ニューサウスウェールズ大学等）へのスタディツアーを実施した。スタディツアーには、15人の学生が参加し、特にオーストラリアの社会福祉・ソーシャルワークから学ぶべき多文化や多様性という共通のキーワードに焦点を当て、様々な専門分野に関する体験学習に取り組んだ（参加教職員3名）。 |

(2) 今年度には、以下の事業の実施が決まっている。

- | | |
|---------|--|
| 2024年3月 | ①「環太平洋社会福祉セミナー2024：グローバル時代における日豪のソーシャルワーク実習教育に関する共同ワークショップ」（本学・ニューサウスウェールズ大学：オンライン形式）の開催 |
|---------|--|

②韓国社会福祉スタディツワーの実施（参加予定人数：学生 10 名・
教員 2 名）

4. 三大学包括連携協定に基づく合同サマースクール構想

清瀬市内には、本学だけではなく、国立看護大学校（萱間真美 大学校長）、明治薬科大学（越前宏俊 学長）が所在する。この三大学は、「清瀬市と市内 3 大学との連携に関する協定」（2014 年 3 月協定書締結）に基づき、清瀬市の連携事業として各大学が共に地域貢献活動を行ってきた。直近では、2022 年 10 月に開催された「令和 4 年度 清瀬市と市内三大学連携事業 清瀬アカデミア がんとの向き合い方」で、がんをテーマに三大学の教員が各々の専門分野の講演（YouTube 配信）を行った。

また、「三大学包括連携協定」（2014 年 5 月包括連携協定調印）に基づき、三大学は、かねてより連携して「教育、研究交流、地域貢献、産学官連携等の各分野において、協定大学それぞれの特色を活かし、これからの医療および保健・福祉分野の人材育成や社会貢献活動に役立てる」特色ある事業を実施したいと考えてきたが、コロナ禍などの影響もあり、三大学が中心となった取組みには至ってこなかった。

そこで現在、三大学の学長間で、短期間の合同サマースクール事業を実施することで、学生が①日頃とは異なる視点を入れ、②「医療および保健・福祉分野」の社会問題などを共に考え、③ワークショップを楽しみながら行って学ぶ機会をつくることを構想している。これにより、清瀬市内の三大学連携によるインタープロフェッショナル教育（IPE）の構築をめざし、清瀬市並びに近隣自治体を含めた地域社会、ひいては日本社会への貢献を進めていく契機としてはどうかと検討している。

5. おわりに

本学は、社会福祉の専門大学として、文京区の人びとの福祉向上に向けて文京区と連携して貢献できる機会があれば、また文京区と本学との連携協定の可能性があれば、前向きに検討したい。